

組織目標評価報告書(平成30年度)

7

部局名:

歯学部

部局長名:

浅海 淳一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>1. 入試の実施状況 入試倍率2.5倍～3.0倍</p> <p>2. 教育の実施体制 ①教務委員会及び歯学教育・国際交流推進センターを核として、歯学教育改革を推進する。 ②60分授業・4学期制に基づくカリキュラム改革の最適化を図り、教育ニーズに応じて改良する。 ③「歯学部教育点検・評価・改善専門委員会」に参加する学生の意見も踏まえ、定期的にカリキュラム上の問題発見と課題解決を続ける。 ④学生に必要な経費の獲得を推進する。</p> <p>3. 教育方法・内容 ①課題解決型教育及び実践型社会連携教育を強化する。 ②ODAPUSプログラムにおける学生の教育を充実させる。 ③協定校、国際同窓会、海外事務所との連携を戦略的に進めることによって留学生受入れの増加をめざす。</p> <p>4. 教育の成果 ①歯科医師国家試験及び研修医マッチング率の向上を図る。</p>	<p>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1. ●すべての入試日程において2.5倍以上の倍率であった。全体で53人のところへ220人の応募があり、倍率は4.32であった。</p> <p>2. ①②●教務委員会を核として、臨床歯学系・基礎歯学系教育研究分野をまたいだカリキュラム改革WGを結成し、解剖学関連カリキュラムの再編を行った。その結果従前科目のスリム化、新たな教育ニーズに応えるための内容の刷新、新専門教育科目「人体発生学入門」を新設した。●教務委員会での審議の結果、教育効果が不明確とされた「歯科医学徳論」を廃止し、学生の自学自習のための時間を確保した。</p> <p>③●「歯学部教育点検・評価・改善専門委員会」を開催、各学年を代表する学生もこれに参加させ、平成31年度に向けてのカリキュラム改革、および同年度に取り組むべき課題について審議し、今後の改善に向けて包括的に情報を収集した。</p> <p>④●臨床能力試験導入に伴う新たな実習プログラムや教育のICT化に必要な動画コンテンツの導入、また電子授業システム改善のために教育改善経費を申請し、満額の配分を得た。●ODAPUSプログラムによって海外に派遣される学生を支援するため、新たなカテゴリーの助成金に応募し、これを獲得した。</p> <p>3. ①●本年度は、文科省 課題解決型高度医療人材養成プログラムの実施最終年度(5年目)に当たり、連携コンソーシアムの総括シンポジウムが、全国から250名の参加者を得て、岡山大で盛會裡に開催された。全国9大学歯学部のカリキュラムに、岡山大学主導で開発した四つのコースワークを均てん化することを試み、90%超の均てん化率を達成するなど多大な成果を得た。</p> <p>②●ODAPUSプログラムにおいて海外に派遣する学生数を今年度さらに増加に導き、総計28名という過半数を超える3年次学生を海外に留学させた。4年次生1名を昨年度新設した長期休暇を利用して他学年でも海外留学可能となるODAPUS2で海外留学させた。</p> <p>③●本年度も新たにトロント大学をはじめとする海外の数校の大学と新たに協定を結び、協定の更新も果たした。留学生受け入れ基盤の強化を図った。すでに大学間協定は締結されていたが、これまで歯学部間の交流がなかった大学2校と新たに歯学部間の交流を開始した。</p> <p>4. ●歯科医師国家試験合格率:91.1%。研修医マッチング率:84.6%</p>
①-2 年度計画との関連	
<p>1)教育実施体制を改革し、60分授業・4学期制に基づくカリキュラム改革を機に柔軟な教育課程の体系整備を図ること。</p> <p>2)課題解決型教育及び実践型社会連携教育を拡充し、地域交流、高年次教養等を導入した教育プログラムの運用を開始すること。</p> <p>3)海外教育拠点の設置、海外協定校の拡充、国際同窓会による教育支援により学生の留学経験者数を拡大すること。</p>	<p>①-2 大学全体への貢献</p> <p>1)●グローバル人材育成特別コース(学部・学科型)の実施と履修条件を設定し、ODAPUSプログラムと組み合わせることでSGUとして達成すべき全学的数値に大きく貢献できるシステムを構築した。</p> <p>2)●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムのもと確立した、地域医療に根ざした実践的社会連携教育システムを、本学のみならず全国連携10大学に広く浸透させ、当該教育における岡山大学のイニシアチブを全国に示した。</p> <p>3)●トロント大学をはじめとする海外の数校の大学と新たに協定を結び、協定の更新も果たした。留学生受け入れ基盤の強化を図った。すでに大学間協定は締結されていたが、これまで歯学部間の交流がなかった大学2校と新たに歯学部間の交流を開始した。トロント大学は世界ランキング21位のカナダのトップにランクされる大学であり、世界に伍する教育研究大学を目指す本学にとって部局間協定の締結は重要な貢献である。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>1. 入試の実施状況 入試倍率2.5倍～3.0倍</p> <p>2. 教育の実施体制 ①ファカルティ・ディベロップメントの体制、内容・方法や実施状況、その結果による授業内容・方法の改善の状況 ②教員による授業評価(ピアレビューの実施状況など) ③学生による授業評価(ベストティーチャー賞など)</p> <p>3. 教育方法・内容 ①実践型社会連携教育参加学生数など ②外国人留学生の受入・日本人学生の海外派遣数</p> <p>4. 教育の成果 ①歯科医師国家試験合格率 ②研修医マッチング率</p>	<p>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1. ●国際バカロレア入試は実施されなかったが、すべての入試日程において2.5倍以上の倍率であった。全体で53人のところへ220人の応募があり、倍率は4.32であった。</p> <p>2. ①●年度初めにカリキュラム改善内容などを周知するFD講演会を定期開催し、これをビデオコンテンツ化して2度にわたってビデオ講演会を行い教員への周知徹底を図った。これに加えて地域連携医療教育に関する定例FDシンポジウムを開催しているのに加えて、本年度は共用試験実施機構から講師を招いてCBT作問ワークショップを挙行政したほか、臨時FD講演会も開催した。以上はすべて教務委員会が中心となり企画、実行されている。</p> <p>②●ピアレビューは教務委員会主導で毎年度定期的に実施しており、本年度も1名の准教授が受審した。結果は本人にフィードバックされ教育内容の改善に役立てられた。</p> <p>3. ①●専門教育科目は歯学部ではすべて必修であり、これに実践型社会連携教育を取り入れているため100%の学生が参加している。</p> <p>②●外国人留学生の受入数17名・日本人学生の海外派遣数29名。</p> <p>4. ①歯科医師国家試験合格率:91.1% ②研修医マッチング率:84.6%。</p>
②研究領域	
②-1 目標	
<p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況 ①岡山大学が実施するプロジェクトへ歯学部の特徴を生かして協力、参画していく。 ②歯学部先端領域研究センター及び歯学部共同利用施設の利便性の向上を図り、研究業績の向上を目指す。 ③若手歯学系教員が主催する研究会である「BioForum」(平成25年から)、歯学部先端領域研究センターが主催するARCOCSセミナー(平成27年から)を継続し、学内外との共同研究の促進を図る。 ④女性教員の採用及び昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進する。 ⑤国際交流を推進し、外国研究機関との共同研究を進める。 その他は、研究科(歯学系)に準ずる。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況 ①歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請及び採択率は高く、特に申請数については上限に近づいている。これらの数値を維持しながら同一人による複数種目の申請を目指し、採択率のさらなる向上を図ることによって研究実施体制等の整備を行う。</p>	<p>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1. ①●2019年度「橋渡し研究戦力推進プログラム」シーズ申請に10件応募し、4件採択された。 ②●前年度末廃止された歯学部RI施設からリユースを図るべく移設した各種機器類を、整備・再配置し、周知したところ、利便性が向上し利用が促進された。また、科学技術振興機構(JST)の先端研究基盤共同促進事業の予算により走査電子顕微鏡を修理し、共用化したことにより、利用者が学部外にも広がった。 ●歯学部先端領域研究センタースタッフ及び運営委員(兼任教員)の業績(著書(分担執筆)5編、英文原著論文93編、総55編)等、詳細は、ホームページに掲載している(http://www.dent.okayama-u.ac.jp/arcocs/bioforum.html)。</p> <p>③●BioForumを年2回、ARCOCSセミナーは月1回開催し、演者に本年度新たに認定された岡大次世代研究育成グループの教員(代表:工学部、医学部教員)や、学外・海外研究者を加えて学内外のみならず海外との共同研究の促進を図った。</p> <p>④●女性教員の比率は他部局に比べて高いが、さらに増加させるべく、教員の公募においては男女共同参画を推進していることを明記するなど、人材確保に努めダイバーシティを推進した。</p> <p>⑤●海外の研究者によるセミナーや国際シンポジウムを積極的に開催し、海外研究機関との共同研究の推進に努めた。</p> <p>2. ①歯学系構成員による文部科学省科学研究費の継続&新規申請教員率(97.7%)および採択率(歯学系:33.3%、岡山大学病院:37.0%)は高く、特に申請教員率については上限に近づいている。これらの数値を維持しながら同一人による複数種目の申請を目指し、採択率のさらなる向上を図ることによって研究実施体制等の整備を行う。</p>
②-2 年度計画との関連	
<p>1)医歯薬学系の「橋渡し研究」でのシーズ研究推進に尽力する岡山大学拠点の活動を推進すること。</p> <p>2)戦略性が高く意欲的な研究計画を推進すること。</p> <p>3)研究の質の向上を目指すこと。</p> <p>4)研究者等の配置に関する目標達成のための方策に関すること。</p>	<p>②-2 大学全体への貢献</p> <p>1)●2019年度「橋渡し研究戦力推進プログラム」シーズ申請に10件応募し、4件採択された。</p> <p>2)●岡山大学における重点研究領域として3研究領域を提案、採択されるなど戦略的研究力の向上を目指した。</p> <p>3)4)●ここ2年間基礎系の教授の交代が多数続いたが、適切に配置出来たことにより、今後さらに研究を推進することが出来、質の向上に繋げることができる。今後臨床系の教授の退職が続くが、基礎系と臨床系の連携を進めることにより大学院生等の受入にも支障がないようにできる体制を整えた。</p>

<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況 国際共著率</p> <p>2. 研究資金の獲得状況 ① 科研費の新規採択率、取得者率 ② 受託研究、共同研究</p>	<p>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1. ●学内、国内外との共同研究を進めた。国際共著率は、全国1位であった。</p> <p>2. ①●科研費の新規採択率:32.2%、取得者率:50.5% ●科学研究費補助金受入状況(採択率:60%)、採択金額:新規(直接経費70,900千円、間接経費21,270千円)、継続(直接経費95,900千円、間接経費28,770千円)。 ②●2018年度の受託研究11件、9,230千円、共同研究13件、1,443千円、寄付金177件、42,685千円。</p>
--	--

③社会貢献(診療を含む)領域

<p>③-1 目標</p> <p>1) 病院や研究科との連携を強化し社会貢献を効率よく実施するため、岡山歯学会、同窓会、関連組織(医療関係者等)と広く意見交換を行い、情報発信ができる社会貢献の体制を確立する。</p> <p>2) 予防医学の立場から保健所等の地域行政機関と協力して、地域保健活動を行い、情報収集、情報提供を通して地域住民に貢献する。</p> <p>3) 世界的に進められているグローバル化に対応するため、協定の締結を推進し、またすでに締結されている機関との交流をさらに活性化させることによって国際交流を推進する。</p> <p>4) 地域医療については、大学病院に準ずる。</p>	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1) ●岡山歯学会、同窓会との意見交換の結果、リカレント教育のニーズが卒業生の間で高まっていることが明らかになった。このため本年度、教務委員会が発信源となってリカレント教育プログラム企画のためのWGが歯学部内に結成された。現時点ですですに具体的なシステム整備に着手している。</p> <p>2) ●母親クラブ、愛育委員、栄養士会等を対象に岡山県庁保健福祉部、岡山市保健所、美作保健所が主催する健康教育講座(う蝕予防講座、歯周病予防講座、オーラルフレイル予防講座)での講師を務め、その後の体験実習の責任者を担当した。また、各行政機関が計画する年度保健計画の作成にあたり、指導・助言を行った。</p> <p>3) ●本年度も新たにトロント大学をはじめとする海外の数校の大学と新たに協定を結び、協定の更新も数校と果たした。すでに大学間協定は締結されていたが、これまで歯学部間の交流がなかった大学2校と新たに歯学部間の交流を開始した。</p>
---	--

<p>③-2 年度計画との関連</p> <p>1) 実践型社会連携教育の推進により、社会から求められる人材の育成を行うこと。</p> <p>2) 岡山大学の研究情報の提供、学術的な知を紹介すること。</p> <p>3) 地方との連携を拡大・強化すること。</p> <p>4) グローバル化を進めること。</p>	<p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>1) ●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムのもと確立した、地域医療に根ざした実践的社会連携教育を全学生に対して行い、社会から求められる人材、特に歯科医師を積極的に育成している。</p> <p>2) ●岡山大学プレリリースで研究情報を提供している。海外で、大学紹介と同時に各分野の研究紹介を行っている。</p> <p>3) ●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムのもと確立した、地域医療に根ざした実践的社会連携教育システムを、本学のみならず全国連携10大学に広く浸透させ、当該教育における岡山大学のイニシアチブを全国に示した。</p> <p>4) ●本年度も新たにトロント大学をはじめとする海外の数校の大学と新たに協定を結び、協定の更新も数校と果たした。すでに大学間協定は締結されていたが、これまで歯学部間の交流がなかった大学2校と新たに歯学部間の交流を開始した。</p>
--	--

<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 診療報酬請求総額</p> <p>2) 患者のべ総数</p> <p>3) 部局間、大学間交流協定の締結数</p> <p>4) 交換留学生の数</p>	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1) ●診療報酬請求総額:平成30年4月～平成31年1月までの診療総報酬請求額1,358,213千円で、昨年度よりも約7,800千円(約0.6%)増加した。</p> <p>2) ●患者のべ総数:平成30年4月～平成31年1月までの外来総患者数は134,855人で、昨年度よりも約2,200人(約1.6%)減少した。診療単価を向上させた。</p> <p>3) ●部局間交流協定:2校、大学間交流協定:0校、大学間協定はあったが、学部間協定すなわちなかった大学2校と交流を開始した、</p> <p>4) ●派遣:29名、受入:18名。</p>
---	---

④管理運営領域

<p>④-1 目標</p> <p>1) 学部内資源の再配分による教員配置の最適化を進め、部局組織の活性化を図る。</p> <p>2) 女性教員の採用及び昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進する。</p> <p>3) 安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底する。</p> <p>4) 老朽化した歯学部棟改修計画を進める。</p>	<p>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1) ●ここ2年間基礎系の教授の交代が多数続いたが、適切に配置出来たことにより、今後さらに研究を推進することが出来、質の向上に繋げることができる。今後臨床系の教授の退職が続くが、基礎系と臨床系の連携を進めることによって大学院生等の受入にも支障がないようにできる体制を整えた。</p> <p>2) ●女性教員の採用及び昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進した。</p> <p>3) ●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。</p> <p>4) ●従来の病院部分ワーキングとともに4階以上の歯学部部分改修ワーキングも立ち上げ、コンセプトとともに素案を作成し、構成員を対象に説明会を開催した。文部科学省とのヒアリングでは、高評価を得ている。施設企画課と連携して案をさらに改良中である。</p>
---	---

<p>④-2 年度計画との関連</p> <p>1) 施設設備の整備・活用に関すること。</p> <p>2) 安全管理に関すること。</p> <p>3) 法令順守に関すること。</p>	<p>④-2 大学全体への貢献</p> <p>1) ●歯学部棟改修計画案作成に際し、現有施設を全面的に見直し、再配置を計画、共有部分比率の増加とオープンラボの設置も視野に入れた共同利用部分の検討を行い、素案に盛り込んだ。</p> <p>2) 3) ●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。</p>
--	--

<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 教員数</p> <p>2) 女性教員数・外国人教員数</p> <p>3) 安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加</p>	<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1) ●教員数は、定員数の範囲内で適切に運用している。</p> <p>2) ●女性教員数(H31.3.1現在):118人中29人(24.6%) (病院籍:38人中11人、研究科:80人中18人) ●外国人教員数:2名</p> <p>3) ●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。</p>
--	--

【総括記述欄】

教育、研究、社会貢献すべてにおいてよい状況を保っている。教育においては、「歯学部教育点検・評価・改善専門委員会」での学生の意見も反映させた上で、歯学教育改革を推進した。特に、従前科目のスリム化、新たな教育ニーズに応えるための内容の刷新、新専門教育科目「人体発生学入門」を新設するとともに、教育効果が不明確とされた「歯科医学徳論」を廃止し、学生の自学自習のための時間を確保した。臨床能力試験導入に伴う新たな実習プログラムや教育のICT化に必要な動画コンテンツの導入、また電子授業システム改善を行った。海外派遣および受入れも順調に増加させ、特に、海外派遣は29名と過去最高であった。国家試験合格率は、91.1%であった。「課題解決型高度人材養成プログラム」は、高い実績を残し5年間の総括シンポジウムを開催した。研究領域では、文部科学省科学研究費の申請及び採択率も高い水準を維持している。「橋渡し研究戦力推進プログラム」シーズ申請に積極的に応募し、10件中4件採択された。学内、国内外との共同研究を進め、国際共著率は、全国1位であった。Shanghai Ranking's Global Ranking of Academic Subjects 2017 - Dentistry & Oral Sciencesで、世界49位、国内4位と上位を保っている。歯学部先端領域研究センター活動も良好である。社会貢献では、地域での歯科保健の推進を目指して、病院外での歯科保健事業に参画し、住民健診、健康イベント、事業所健診、学校健診などの機会を利用して、口腔の健康と全身の健康との関連などについて情報提供をしている。文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムのもと確立した、地域医療に根ざした実践的社会連携教育システムを、本学のみならず全国連携10大学に広く浸透させ、当該教育における岡山大学のイニシアチブを全国に示した。部局間交流協定を2校締結し、大学間協定はあったが、学部間協定を進めていなかった大学2校と交流を開始した、活発な交流を進めている。診療報酬請求総額および診療単価を向上させた。管理運営では、歯学部棟改修計画案作成に際し、現有施設を全面的に見直し、再配置を計画、共有部分比率の増加とオープンラボの設置も視野に入れた共同利用部分の検討を行っている。また、順次人員配置を見直し、再配置を行った。